

ミクローシュ・ペレーニ

MIKLÓS PERÉNYI

底光りの名演

Perényi Miklós

現代
チエロ界の
最高峰

Program

バッハ

無伴奏チェロ組曲第6番 ニ長調 BWV.1012

J.S. Bach : Suite für Violoncello allein Nr.6 D-Dur BWV.1012

ブリテン

無伴奏チェロ組曲第2番 Op.80

B. Britten : Suite for Cello No.2 Op.80

コダーイ

無伴奏チェロ・ソナタ Op.8

Z. Kodály : Szólószonáta gordonkára Op.8

2010

4/30 [金] 19:00開演(18:30開場)
フィリアホール

■東急田園都市線 青葉台駅下車徒歩3分(青葉台東急スクエアSouth-1本館5階)

S ¥5,500 A ¥4,500(全席指定・税込)

主催:NOAH 共催:フィリアホール 後援:ハンガリー共和国大使館

[チケット取扱い] ノア・チケット 03-5386-9999 <http://noah-co.com/>

フィリアホールチケットセンター 045-982-9999 <http://www.philihall.com>

チケットぴあ 0570-02-9999 e+ イープラス <http://eplus.jp/>

お問い合わせ ノア・チケット 03-5386-9999 <http://noah-co.com/>

2010.2.6 [土] 前売開始

*曲目は一部変更される場合があります。未就学児の入場はご遠慮お願い申し上げます。



MIKLÓS PERÉNYI
J. A. P. S. A. N.
2010

ペレーニ、至高の無伴奏チェロ・リサイタル！

ミクローシュ・ペレーニが2007年11月、2009年2月とわが国を訪れ、リサイタルや協奏曲等で圧倒的な名演をのこし、聴衆を陶酔させたのは記憶に新しい。そのペレーニがさらに2010年4月、満を持してバッハを中心とした無伴奏プログラムを携え登場する。この連続来日の間に還暦を迎えたペレーニは、優れた音楽家の宝庫ハンガリーが誇る世界的にも唯一無二の誉れ高きチェリストとして、音楽ファンはもちろんプロ演奏家たちも畏敬の念を隠さない存在である。

そのキャリアにおいては、決して世界中を飛びまわるような華々しい活動を選ばず、困難な政治的環境もあいまって、母校であるリスト音楽院の教授職を尊重しつつ、国内で絶え間ない自己研鑽の道をじっくりと歩んできた。祖国に根をおろし穏やかで自然であることの深旨を誰よりも知るペレーニの円熟の境地は朴訥な人柄とともに伝説的なほどであったが、その実演にふれる至福を待望する愛好者は近年いちじるしく増加し、いまや最も注目を集めているチェリストと言っても過言ではない。

演奏中のペレーニは、瞑目して愛でるようにチェロを抱き構え、遙か内なる作曲家の声、そして自らの音に一心に耳を傾け吟味しているかのようであり、時折こぼれおちる優しい微笑は、求める最上の音楽が生まれた喜びとその刹那を慈しむかのようである。ひとつひとつの音には作品の音楽的論理を探究し表現するという一貫した信念が漲っており、翳りのある独特なその音色はこれ見よがしな装飾とは無縁の、雑念を寄せつけない真の実直さをたたえた逞しい響きである。その揺るぎない構築のために並外れた集中力と途方もない技術の熟練をもってのぞむ姿には、崇高なダンディズムの凄みすらおぼえる。

魂が奏でる一挺のチェロ。最高の演奏家、その真骨頂がそこにはある。



ミクローシュ・ペレーニ (チェロ) Miklós Perényi (Cello)

1948年ブダペストに生まれる。音楽一家で幼少からその才能を育み、5歳でダーヴィト・ポッパーの弟子ミクローシュ・ジャムボキに師事、チェロを学び始める。7歳でリスト音楽院に入学、エデ・バンダに師事し、9歳で初のコンサートを行なう。1960年から64年にかけてローマ聖チェチーリア音楽院に進み、エンリーコ・マイナルディのもとで研鑽を積む。

1963年ブダペストで開催されたパブロ・カザルス国際チェロ・コンクール入賞後、カザルス自身の招きにより、プエルトリコをはじめとする各地のマスタークラス(1965, 66年)、また夏のマールボロ音楽祭へたびたび参加し、巨匠の薫陶を受ける。以来、世界の主要な音楽都市でコンサートを行なっている。またエディンバラ、ルツェルン、プラハ、ザルツブルク、ウィーン、ワルシャワ、ベルリン等の音楽祭、クロンベルクやプラド(パブロ・カザルス)等の国際チェロ・フェスティヴァルへも多数客演している。1974年よりリスト音楽院で教鞭を執り、1980年より教授職(現職)に就任。

17世紀から現代にいたるまでの広範なレパートリーを極め、ソロ、デュオ、室内楽コンサート出演のほか、大学での講義、またチェロ独奏を伴う大小さまざまな器楽アンサンブルの組織・楽曲上演にも注力している。なかでも信頼を置くピアニスト、アンドラーシュ・シフとの共演(シューベルト・アールデ音楽祭、ルール音楽祭、ロンドン・ウィグモアホール等における名演)、ケラー弦楽四重奏団との定期的なコラボレーションの成功も話題を呼んでいる。Hungaroton、EMI-Quint、Sony Classic、Teldec、Decca、col legno、Erato等のレーベルに多数の録音があり、いずれも高い評価を得ている。1998, 99年にかけてフランツ・リスト、ジェルジ・リゲティ、フェレンツ・ファルカシュ、シャンドル・ヴェレシュ、エルネー・ドホナーニ、レオー・ヴェイネル、アンドラーシュ・ミハイの楽曲を集めた《ハンガリーのチェロ音楽》を制作、その後コダーイの《チェロのための楽曲全集》録音を完成。2004年ECM RecordsよりリリースされたCDは、2度目のベートーヴェンのソナタ全曲(ピアノ:シフ)であり、同CDは2005年カンヌ・クラシック・アワードを受賞している。1996年に収録され近年DVDとしてリリースが実現したバッハの無伴奏チェロ組曲全曲、また2008年に3つのプログラムで行なわれた『リスト音楽院コンサート』を収めたDVDも絶賛されている。

わが国では1978年に初来日を果たして以来たびたび招かれ、これまでソロ・リサイタルをはじめNHK交響楽団、東京都交響楽団、札幌交響楽団等と共演している。

1980年に‘コシュート賞’、1987年に‘バルトーク=パストリ賞’をそれぞれ受賞。